

分析結果と 取組事例

	はじめに	20
	分析結果のまとめ	24
	事例報告のまとめ	28
1 テーマ 運動やスポーツへの意識の高い児童生徒・学校の特徴 22	事例 1	青森県青森市立浪館小学校 30
	事例 2	奈良県田原本町立田原本小学校 32
	事例 3	福岡県久留米市立田主丸小学校 34
	事例 4	栃木県小山市立絹中学校 36
	事例 5	新潟県佐渡市立佐和田中学校 38
	事例 6	広島県廿日市市立佐伯中学校 40
2 テーマ 運動時間の長い児童生徒・学校の特徴 42	分析結果のまとめ	44
	事例報告のまとめ	48
	事例 7	大阪府茨木市立中条小学校 50
	事例 8	香川県多度津町立四箇小学校 52
	事例 9	高知県高知市立横浜新町小学校 54
	事例 10	富山県氷見市立十三中学校 56
3 テーマ 体力・運動能力の高い児童生徒・学校の特徴 62	事例 11	愛媛県松山市立勝山中学校 58
	事例 12	熊本県大津町立大津北中学校 60
	分析結果のまとめ	64
	事例報告のまとめ	68
	事例 13	長野県長野市立川田小学校 70
	事例 14	岡山県津山市立院庄小学校 72
●特別支援学校の取組	事例 15	佐賀県伊万里市立山代東小学校 74
	事例 16	大分県豊後高田市立高田小学校 76
	事例 17	福島県田村市立船引南中学校 78
	事例 18	山梨県西桂町立西桂中学校 80
	事例 19	愛知県半田市立半田中学校 82
	事例 20	兵庫県立姫路聴覚特別支援学校小学部 84
●市区町村教育委員会の取組	事例 21	岐阜県立岐阜聾学校（中学部） 86
	事例 22	埼玉県上里町教育委員会 88
	事例 23	三重県朝日町教育委員会 90
特集	特集 1	「体力の高い学校」はどのような取組をしているか 92
	特集 2	体力の向上に継続的に取り組む教育委員会の挑戦 94
	特集 3	「オリンピック・パラリンピック教育」の現状と取組 98

はじめに

本年度は、調査結果から、高水準の児童生徒や学校の実態を明らかにし、体育・保健体育授業における指導の工夫・改善の鍵を探ることを目指した。この際、「児童生徒の『体力』は、『運動やスポーツへの意識』『運動時間』と密接な関係にある」というこれまでの知見に基づき、「運動やスポーツへの意識」「運動時間」「体力」のキーワード別に分析を進めた。また、この3つのキーワードからなるテーマに即して、それぞれにかかわる優れた取組で成果を上げている学校を訪問取材し、それらの取組事例と訪問取材に基づく考察をあわせて紹介する。

「運動やスポーツへの意識」「運動時間」「体力」の深いつながり

本調査は、全国的な子供の体力の状況を把握、分析することにより、子供の体力向上にかかわる施策の改善を図ることを目指している。過去の調査でも、児童生徒の「運動やスポーツへの意識」「運動時間」「体力」の密接なかかわりは明らかである。以下のグラフは、縦軸を「体力合計点」、横軸を「1週間の総運動時間」とし、「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答とを3重クロ

ス集計した結果である。円の大きさは、回答した児童生徒の人数規模を表している。

このグラフからは、「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的な回答をした児童生徒ほど、運動時間が長く、体力合計点が高いことがわかる。特に、最も肯定的な回答をした場合と、それ以外とでは、小・中学校ともに運動時間の平均に約210～380分の差があった。

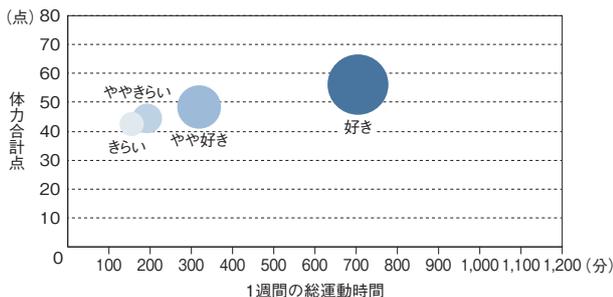
同様の傾向は、「運動やスポーツは大切なもの」「中学校に進んだら、授業以外でも（中学校を卒業した後、）自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」などの回答でもみられた。

このように「運動やスポーツへの意識」「運動時間」「体力」には、深いつながりがあることがうかがえる。

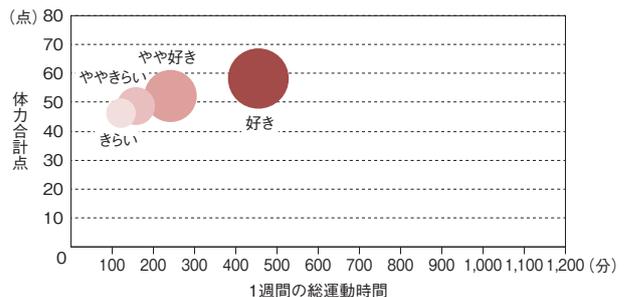
児童生徒の「運動やスポーツが好き」の回答と1週間の総運動時間・体力合計点との関連

小学校

● 男子

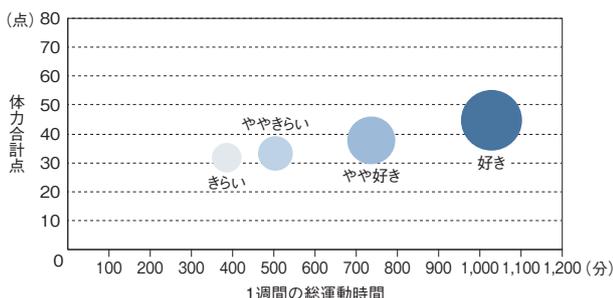


● 女子

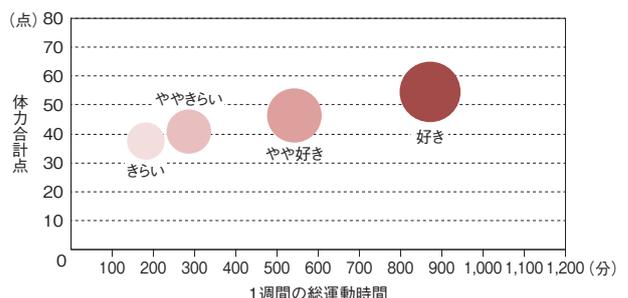


中学校

● 男子



● 女子



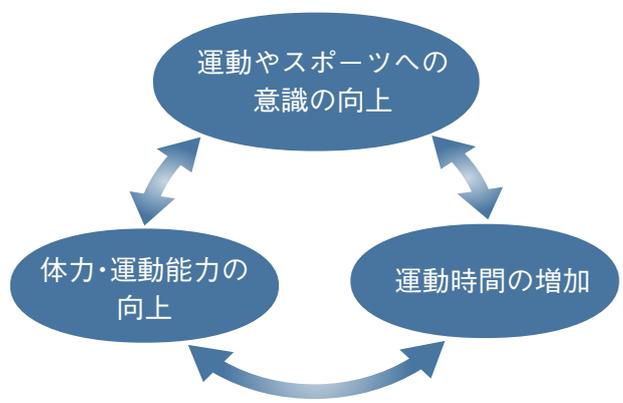
「運動やスポーツへの意識」を高め、「運動時間」を延ばし、「体力」を向上させる好循環を目指して

体育・保健体育の学習指導要領の目標には「運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする」ことが示されており、児童生徒に運動の特性や魅力に応じて、様々な運動の楽しさを感じさせる体育・保健体育の授業が目指されている。児童生徒

の体力向上を促進するためには、運動の楽しさや喜びを実感できるような学校の取組の中で、児童生徒が運動に触れる機会を多くもち、運動やスポーツへの意識を高めていくことが重要である。

また、「運動やスポーツへの意識」

「運動時間」「体力」の強い結び付きを理解し、これらに対して総合的に働きかけ、相乗効果を高めることは、児童生徒の体力向上及び健康の保持増進に有効である。



運動やスポーツへの意識が高い、運動時間が長い、体力合計点が高いなどの児童生徒には、どのような特徴があるだろう。また、このような児童生徒が多い学校には、どのような特徴があるのだろうか。

本年度調査では、「高水準の児童生徒」「高水準の学校」を、主に以下のような基準で抽出し、分析を試みた。

高水準の児童生徒

- 「意識」においては、「運動やスポーツをすることは好き」「運動やスポーツは大切」「体育・保健体育の授業は楽しい」等の項目で、最も肯定的な回答をした児童生徒
- 「時間」においては、「1週間の総運動時間が420分以上」であった児童生徒
- 「体力」においては、総合評価がAであった児童生徒

高水準の学校（上位校）

- 「意識」においては、「運動やスポーツをすることは好き」「運動やスポーツは大切」「体育・保健体育の授業は楽しい」等の項目において、最も肯定的な回答をした児童生徒の割合が高かった学校（上位10%）
- 「時間」においては、「1週間の総運動時間が420分以上」の児童生徒の割合が高かった学校（上位10%）
- 「体力」においては、体力合計点が高かった学校（上位10%）

※本文中では、本調査の質問項目の文言やその内容を適宜省略して表記する場合がある。

- 例：児童生徒 質問1 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好きですか。」 → 「運動が好き」
- 児童生徒 質問6 「中学校に進んだら、授業以外でも（中学校を卒業した後、）自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。」 → 「卒業後も自主的に運動したい」
- 児童生徒 質問20 「体育（保健体育）の授業は楽しいですか。」 → 「授業は楽しい」